

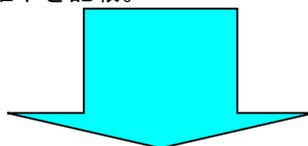
## 対象とする地震について

現在の被害想定で対象としている地震				
タイプ	海溝型地震		直下型地震	
震源域	南海トラフ		中央構造線	長尾断層
	最大クラス (L2)	発生頻度の高いもの (L1)		
発生頻度 ※1	千年に一度あるいはそれよりも低い頻度	数十年から百数十年に一度程度	1千年～1千6百年に一度	3万年に一度
発生確率 (30年以内) ※2	70%～80% (マグニチュード8～9クラス)		1%以下(※3)	ほぼ0%

※1 「香川県地震・津波被害想定調査報告書」(平成26年6月)より

※2 文部科学省地震調査委員会の公表によるもので、R5.1.1現在の数値。

※3 讃岐山脈南縁東部区間の発生確率を記載。



### 今回の被害想定見直しにあたって対象とする地震の考え方

#### (1) 南海トラフを震源域とする海溝型地震

⇒ 発生確率が高く、国における見直し内容や、防災対策の進捗状況、社会条件等の変化を踏まえ、最新の知見やデータを活用し、見直しを行う。

#### (2) 中央構造線や長尾断層を震源域とする直下型地震

⇒ 発生確率は相対的に低いものの、発生した場合は本県に甚大な被害をもたらすものであることから、防災対策の進捗状況、社会条件等の変化を踏まえ、最新の知見やデータを活用し、南海トラフを震源域とする海溝型地震の見直しに併せて、地震発生確率が示されている上記2断層の地震について、見直しを行う。